

◆パネルディスカッション①〔図書館経営と館長の職務〕◆（講師：曾木 聡子）

質問2

私は一般行政職で採用でしたが、若い時に2年だけ市長部局に異動しましたが、その時も庶務経理は経験がなく、その後はずっと図書館で司書業務でしたので、今年、定年まであと数年で管理職になり、今まさに、議会・契約・財政・各課との調整等初めて尽くして苦労しております。なので、浦安市立図書館では図書館の幹部候補生と行政職との人事交流があるとお話が素晴らしいなと思ってお聞きしていました。質問ですが、浦安市の図書館の幹部候補生は一般行政職での採用ではなく司書職の採用の方なののでしょうか？1年だけの異動ということなので、行政職ではないのかなと思います、質問させていただきました。

回答

浦安市では平成元年度より司書採用を行っています。他課への異動もありませんでした。市の組織の一担当課としては、非常に珍しい職員構成であると思います。しかし、図書館運営を安定して継続させていくことを目指すなら、図書館業務のみに精通するだけでなく、行政事務についてある程度の知識は必要だと思います。議会对応、予算、決算、契約、こうした庁内職員があたりまえに知っていることを、知らない、わからない、というばかりでは、上層部や他課の職員からみた、専門職職員に対する評価が上がりにくい可能性があります。

館長になると、すぐに将来の館長、係長を誰にしたらよいかを考えることになります。「幹部候補生」とは、その中で考えられる職員です。運営方針を継続させ安定したマネジメントを行うなら、手元で育成することも必要ですが、研修という名目での異動は、行政事務の知識を得るだけでなく、組織の中の図書館のあり方を知り、職業意識を向上させる効果もあると思います。

図書館の各サービスの仕事は、司書としての満足度は高いものですが、司書が自分の勤務する図書館の仕事だけやっていたらよいという時代ではありません。自治体の状況、首長の考え方、市民の要望、あらゆる図書館と置かれている状況、国や県の方針等を総合的に考え、市の計画の中に載せていくことが必要だと思います。できれば人事交流（庁内からも図書館へ異動）ということが行われれば、さらに効果は上がると思います。

質問6

有益な情報をご提供いただきありがとうございます。そのうえで、昨日の講義も含め、コロナ対応において、首長からの指示に基づき内容を決定したとの趣旨の発言がありました。教育委員会の指示ではなく首長の指示に従うということは、首長から独立している教育委員会制度の趣旨とずれるようにも思えますが、どのように考えればよろしいのでしょうか。

回答

新型コロナウイルス対策については、自治体の中で対策本部を置き、感染拡大防止対策を

総合的に考えられていると思います。浦安市の場合も、全庁一体となって対策を進めるという方針から、教育長も含めた対策会議に沿った対応を行っています。

教育委員会の意義、特性は理解していますが、新型コロナウイルス感染予防対策は、教育委員会が独立して対応できるとは言い難いものではないでしょうか。災害レベルと言っていいほどの危機管理対策を行っている中で、独自の路線に行くことは、組織云々というよりも、市民を安全に守れるのかという問題があると思います。